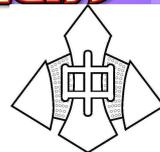


- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年5月25日(火)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

増田太郎さんがやって来る!! 60周年記念行事芸術鑑賞教室



本校は今年60周年を迎えます。12月3日(金)には60周年記念行事として芸術鑑賞教室を実施します。その芸術鑑賞教室に、私の大切な友人である“盲目のミュージシャン”の増田太郎さんをお招きし講演ライブを行います。今回はその増田太郎さんを紹介したいと思います。太郎さんの講演ライブに参加した生徒の感想です。

初めて聴いたヴァイオリンの生演奏は私の想像をはるかに超えていました。太郎さんが奏でるヴァイオリンの音は、とても優しく心を癒してくれました。今もあの心に響く音は忘れられません。歌とピアノもすごく心に優しくかったです。歌詞はひとつひとつの言葉に重みがあり、強い想いがないと表現できないと思いました。ひとつの歌でこんなに人も感動させられるんだと改めて思いました。太郎さんは障がいをもっていますが、“音楽”という自分の場所をつくって頑張っていると思うと、私も頑張ろうと、勇気と元気をすごくもらいました。

5歳よりヴァイオリンを始め、20歳で視力を失うが、「ヴァイオリンを弾きながら歌う」という独自のスタイルで音楽活動を展開しており、その生命力あふれる演奏は心に響くすばらしいものです。太郎さんの奏でるヴァイオリンやピアノの音色、歌声、その1曲1曲には彼の想いや願いがこもっていて心に深く沁みこんでいきます。また、演奏の合間のトークも時にユーモラスで、時に静かにずっしりと重く、聴く人の心をわしづかみにします。太郎さんは日本各地の学校や企業、自治体等において精力的に講演ライブを続けています。ドラマ、映画、アニメ、ゲームなどの音楽も数多く手がけています。

Profile

- その生命力あふれる演奏が、フジTV《とくダネ!》をはじめ、新聞各紙に取り上げられる。
- 楽曲『雲』がNHK「みんなのうた」で放送されたほか、普天間かおりさんに提供した楽曲《花星賛歌》がテレビ東京《美の巨人たち》のエンディングテーマに起用。
- 1年間ニッポン放送《オールナイトニッポンレコード》にて《悩み相談コーナー》などを担当。
- 毎年放送されているニッポン放送《ラジオ・チャリティ・ミュージックソン》に2002年より毎年出演。
- ヴァイオリニストとして、森山直太朗さんの「手紙」(シングル「さくら」にカップリング収録)ほか、様々なアーティストのレコーディングやコンサートに参加。
- 2009年5月、ニューヨークセントラルパークで開催された“Japan Day”にて演奏。
- 2010年、小林研一郎さん指揮《コバケンとその仲間たちオーケストラ》メンバーとして、《NHK厚生文化事業団創立50周年記念コンサート》に出演。(NHKホール、辻井信行さん他がソリストを務める。)
- 同年、《24時間テレビ》の久石譲さん指揮《TOKYOと241人のスペシャルオーケストラ》にて演奏。アメリカNYから初来日を果たした平均年齢80歳の老舗バンド《ハーレム・ブルース&ジャズバンド》と共演。
- 2011年、東日本大震災発生直後に楽曲《希望の景色》を発表。福島県下最大の避難所、郡山《ビッグパレット》はじめ被災地や避難所で演奏。福島市の詩人、和合亮一氏の朗読に即興でヴァイオリンをつける《詩の磔》にて共演。



富田中での講演ライブ(2018・2019)

- 2012年、はじめてのヴァイオリンアルバム《希望の景色》発表。同アルバム収録楽曲《Waltz Noir (ワルツノワール)》がテレビ東京《美の巨人たち》エンディングテーマとして放映。テレビ東京にて、ドキュメンタリーが放送される。
- 同年7月、林真理子直木賞受賞作小西真奈美朗読のオーディオブック《京都まで》の音楽制作とヴァイオリン演奏を担当。2013年、NHKラジオ第二放送「聞いて聞かせて」にて特集番組が放送。
- 2014年、《希望の景色》収録曲《パッセのワルツ》がNHK BSプレミアム《世界ワンワンドキュ》挿入曲として放送。
- ラジオ番組「増田太郎ミュージックシュタイン」（茨城・和歌山放送、ラジオ沖縄、むさしのFM、FMたちかわ、日本福祉放送）のパーソナリティを1999年から2015年まで担当。増田太郎ホームページから聴けるインターネットラジオ「TAROWAVE」も大好評！
- 映画《くらやみ祭りの小川さん》（六角精児主演、高島礼子、柄本明出演）のすべての音楽を担当。
- NHK「おかあさんといっしょ」2021年1月の歌「おたすけ！およよマン」作曲。好評を博す。
- CD《希望の景色》、《カラフルモメント～いろんな色の毎日が、ぼくらの背中を強くしてくれる》、《生きる》、著書にエッセイ《毎日が歌っている》（すばる舎）などがある。

1本のメールからの奇跡的な出逢い…

2011年、本宮第二中学校において、あの東日本大震災による地震で校舎が倒壊し、公民館での間借り生活やプレハブ校舎での不便な学校生活を余儀なくされていた状況の中、文化祭を郡山市のユラックス熱海で開催することになりました。学校の体育館は取り壊し作業が行われており使用できませんでした。例年は別日に実施していた芸術鑑賞教室を文化祭の中に組み込むことになり、どんなジャンルで、どんな人に来てもらうかを検討していたところ、東日本大震災の被災者の避難所になっていた郡山のビックパレットふくしまで太郎さんが演奏し、その演奏にすごく感動したとの話を知人から聞きました。すぐに太郎さんのホームページを見ました。ハンディを乗り越え、各地でコンサートや講演ライブを積極的に展開している太郎さんの姿に強い共感を持ちました。次元は違うかもしれませんが、なぜか当時の本宮二中の生徒たち、教職員の置かれている立場と重なる想いがしました。



またホームページ上の『こんな時代だけど、こんな時代だからこそ、高らかに、希望を歌っていきたい！ぜひ、増田太郎をあなたの街に呼んでください。』という言葉にも心を動かされました。「生徒たちに元気と勇気を与えたい！」という想いから、当時の学校の状況と10月15日の文化祭での演奏依頼をメール送信しました。すると、すぐに「ぜひ演奏させてほしい！」との返信が返って来たのです。10月18日にはアメリカのニューヨークでの演奏を控え、本来であれば15日にはアメリカにいる予定でしたが、日程を調整して、文化祭での演奏を可能にしてくれたのです。本当にありがたかったです。そして、10月15日の文化祭での太郎さんの講演ライブは期待通りで、生徒たちに大いなる元気と勇気を与えてくれる素晴らしいものとなりました。

1本のメールからの奇跡的な出逢い…。それ以降、太郎さんのライブやコンサートなどに参加させてもらっています。今はかけがえのない大切な友人です。前任校の日和田中や富田中でも講演ライブを開催することができました。その中で、日和田中の生徒とのコラボレーションによる『生きる』という素晴らしい楽曲も誕生しました。今回、その太郎さんをこの小原田中にも招くことができること、とても嬉しく思っています。

太郎さんのエッセイにこんな言葉があります。

「目が見えないけれど／歌い続けてきたから／見えてきた／人と響き合いながら／生きる素晴らしさ」

目が見えないことと仲良く付き合っ、精力的にライブ活動等に取り組み、前向きに生きている太郎さんから、きっとたくさんのエネルギーをもらえらると思います。そして、演奏はもちろん、その生き方からも学ぶべきことが必ずあるはず。感動的な演奏やトークをご期待ください。太郎さんのFacebookやホームページ、YouTubeを開くと、太郎さんの活動の様子を知ることができます。楽曲を聴くこともできます。

太郎さん『徹子の部屋』出演!!

最後にとっておきの情報です。増田太郎さんが、あの『徹子の部屋』に出演します。**放送日時は、6月1日(火) 13時～13時30分**で、**放送局は福島放送(KFB)**です。録画できる人は是非録画をして観てください。黒柳徹子さんとのトークが楽しみです、太郎さんの人柄もよくわかんると思います。番組の中で演奏も披露するそうです。

